

# 大ケヤキ保護

## 土壌改良および危険個所調査(5月16~17日)



左端が佐渡の今泉造園・今泉孝文樹木医。協力・助手3人は地元のエル・グリーン。



作業のはじまる前日・16日に、今回の作業についての説明・研修会を行う。室内・現地と3時間にわたる。

平成20年6月〜7月に佐藤樹木医から、吉祥・長寿・夫婦ケヤキの3本を調査。「大ケヤキを守る会」が発足され、毎週一回の活性剤散布。春秋の堆肥の施用等の管理を行ってきた。ここ数年くらい前からケヤキの樹勢が弱々しく、昨年11月に、大ケヤキ7本を今泉樹木医から調査診断いただく。その提案(報告書)について、総代会で協議を重ね、今回の土壌改良作業、危険個所調査になる。  
謙信公お手植えの「吉祥樺」は400年。他の4本も400〜600年の巨木。このケヤキ群は平成27年に南魚沼市指定文化財となる。



全ての樺に登はんし、枝の不完全な結合「入川」空洞の調査、危険個所調査。危険個所は削除する。



穿孔器具から高圧水(液肥)を噴射。80cm深まで可能。孔穴に通気性持続のためスキを挿入。1本の樺に800~1000孔穴を。

## 山門「板谷桂舟 壁画・天井画」

### 修復事業最終年(3年)に

- 修復基本方針
  - ・ 現状を維持する剥落止め、彩色層の強化。
  - ・ 現状維持修復を理念とし、基本的に補彩は行わない。
  - ・ 壁画の部材同士の接合の強化に、裏面から麦漆で麻布を貼る。



中央が松岡先生(南蒲原郡田上町)



### ● 損傷状況 (天井画)

- ・ 経年劣化により、彩色層自体の強度が弱まり劣化を起こしていた。
- ・ 彩色層の剥離、剥落が起こっていた。
- ・ 支持体である板目が遊離しているものもあった。
- ・ 板が欠失している部分もあった。

(壁画)・部分的に彩色層が剥離し、めくれ上がっている箇所があった。

今年三年目は、壁画3枚、天井画8枚の修復。一枚一枚の絵具・彩色状態が異なり、細心の注意を払い、補修を行っている苦労話を聞く。

来年、山門設置前に、池田記念美術館で、展示する計画(4・22〜5・28)で、その協議を行う。

二年目の修復報告書を「朝日新聞文化財団」に送付し、三年目の助成金二百二十万円を申請。